介護福祉科（CW23A、24A）

					1年次		2年次	
			単位	時間	前期	後期	前期	後期
人間と社会	人間の理解	講義	2	30	30			
	人間関係とコミュニケーション	講義	2	60	30	30		
	社会と制度の理解Ⅰ	講義	2	30		30		
	社会と制度の理解Ⅱ	講義	2	30			30	
	国語表現	講義	2	30	30			
	地域福祉論	講義	2	30			30	
	福祉情報処理	演習	4	60			30	30
介護	介護の基本Ⅰ	講義	4	60	30	30		
	介護の基本Ⅱ	講義	4	60			30	30
	介護の基本Ⅲ	講義	4	60				60
	コミュニケーション技術	講義	4	60	30	30		
	生活支援技術A（実技基礎）	実技	2	60		60		
	生活支援技術B（実技応用）	実技	2	60			60	
	生活支援技術C（被服/住居）	演習	4	60	60			
	生活支援技術D（栄養/調理）	演習	4	60				60
	生活支援技術E（重複障害者の介護）	講義	2	30		30		
	生活支援技術F（内部障害）	講義	2	30			30	
	介護過程Ⅰ	講義	4	60		60		
	介護過程Ⅱ（ケアマネジメント）	講義	2	30			30	
	介護過程Ⅲ（演習）	演習	4	60				60
	介護総合演習Ⅰ	講義	4	60	30	30		
	介護総合演習Ⅱ	講義	4	60			30	30
	介護実習(最終実習に夜勤1回含む)	実習	15	456	80	176	200	
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	講義	4	60	30	30		
	認知症の理解	講義	4	60	30	30		
	障害の理解Ⅰ	講義	2	30	30			
	障害の理解Ⅱ	講義	2	30			30	
	こころとからだのしくみⅠ	講義	4	60	30	30		
	こころとからだのしくみⅡ	講義	4	60			30	30
	機能的解剖学	講義	2	30		30		
医療的ケア	医療的ケアⅠ	講義	2	34	34			
	医療的ケアⅡ	講義	2	34			34	
	医療的ケアⅢ　演習	演習	4	60				60
			111	**1994**	474	596	564	360
選択	整体療法学	実技	2	60			60	
			113	**2054**	474	596	624	360

シラバス（授業計画書）

科目名（　社会と制度の理解Ⅱ　　）

学科名　介護福祉科

学年　２年

1　授業の概要

本授業では，障害者支援の法制度を理解するとともに，人々の権利を擁護する制度や医療保険制度を始め介護に関わる医療関係者との連携に必要な法規などについて学び，担当教員の実務経験を基に，実際のサービス・制度利用者の事例を参考にしつつ，介護実践に関わる基礎的知識を習得する。

2　到達目標

①　障害者が地域で自立した生活を送るために，どのような法制度が整備されて運用されているのか理解することができる。

②　高齢者や障害者を始め，人々が有する権利などを理解し，障害者や高齢者などが安心して地域で暮らしていくための法制度を学び，生活を支えるための基礎的知識を習得することができる。

3　授業の方法

教科書，その他の資料を用いながら，講義形式で進めていく。

4　成績評価方法・基準

定期試験	60%
レポート	20%
授業態度	20%

5　評価の際の特記事項

定期試験及びレポートの提出，受講姿勢をもとに評価を行います。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書には多くの知識が書かれています。授業前後にしっかりと読み込んでいてください。

7　使用教材，教具

最新・介護福祉士養成講座（第２版）　社会の理解　中央法規出版

8　学生へのメッセージ

分かりやすいように授業を進めていきますので，しっかり授業に参加してください。また，
分からない点があれば，積極的に確認してください。

9　教員氏名　（　山崎　紘史　）

所　属　（　社会福祉法人　実寿穂会　）

実務経験の詳細（　介護施設にて社会福祉士として勤務　）

１０　特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（　社会と制度の理解Ⅱ　）

回数	授業内容
1	第3章　介護保険制度　第2節　介護保険のしくみ②
2	第3章　介護保険制度　第3節　介護保険制度にかかわる組織とその役割
3	第3章　介護保険制度　第4節　介護保険制度における専門職の役割
4	第3章　介護保険制度　第5節　介護保険制度改正の流れと地域包括ケア
5	第4章　障害者の支援を担う法制度　第1節　障害者の自立と障害者自立支援制度の目的
6	第4章　障害者の支援を担う法制度　第2節　障害者福祉施策の動向
7	第4章　障害者の支援を担う法制度　第3節　障害者自立支援制度のしくみ
8	第4章　障害者の支援を担う法制度　第4節　障害者自立支援にかかわる組織とその役割
9	第5章　介護実践にかかわる諸制度　第1節　人々の権利を擁護する諸制度
10	第5章　介護実践にかかわる諸制度　第2節　保健医療にかかわる諸施策
11	第5章　介護実践にかかわる諸制度　第3節　医療にかかわる法と諸施策
12	第5章　介護実践にかかわる諸制度　第4節　生活を支える諸制度のあらまし
13	第5章　介護実践にかかわる諸制度　第5節　高齢者・障害者の住生活を支援する諸制度
14	講義振り返り・ポイント復習・レポート
15	定期試験
16	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　地域福祉論　）

学科名　介護福祉科
学年　２年

1　授業の内容
誰もが暮らしやすい社会を目指して，障害があるからという理由で不便な生活を送ることがなくなるためにはどうしたらいいか，一緒に考え学習していく。

2　到達目標
障害を知り，社会資源を知り，障害のある方の個の力を引き出す力を考え，介護福祉士として何ができるかを考えることができる。

3　授業の方法
パワーポイント資料による講義の他，講義内容に関連する課題に対するグループワーク等を実施する。

4　成績評価方法・基準

定期試験	70%
小テスト（レポート）	20%
授業態度	10%

5　評価の際の特記事項
授業態度は，受講態度，発言の信頼性，出欠席をもとに評価する（居眠り厳禁)。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容
授業で配付している資料を復習することにより，さらに知識を深める。

7　使用教材，教具
テキストは特に指定なし。必要に応じて資料（プリント）を配付。

8　学生へのメッセージ
積極的に学び，福祉，障害に向き合えるきっかけになることを期待する。

9　教員氏名　（　城戸　修一　）
所　　属　（　社会福祉法人　ウイキャン・サポート　）
実務経験の詳細　（　福祉施設にて社会福祉士として勤務　）

１０　特記事項
実務経験のある教員による授業科目

科目名（　　地域福祉論　　）

回数	授業内容
1	オリエンテーション・『障害』について
2	障害者の災害支援について
3	身体障害者の歴史　身体障害者の特性とその支援
4	施設見学・スポーツレクを体験しよう①
5	施設見学・スポーツレクを体験しよう②
6	障害福祉センター説明・スポーツ紹介
7	ストレングスについて
8	社会資源を知る（バリアフリー）・インフォーマル支援を考える
9	福祉サービスを知る
10	精神障害者の特性とその支援
11	知的障害者の特性とその支援
12	ピアカウンセリングについて（当事者を知る）
13	障害者虐待についてその対策と支援・アンガーマネジメントについて
14	ケアマネジメント演習
15	定期試験
16	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　福祉情報処理　）

学科名　介護福祉科
学年　２年

1　授業の内容
Word による文書作成，Excel による表計算・グラフ作成・データベース機能の利用，
PowerPoint によるプレゼンテーション作成など，Office の基本について学習する。

2　到達目標
各アプリケーションの機能概要と作業の効率化について理解し，就職後の業務に利する知識と技術を習得する。

3　授業の方法
講師用 PC の画面をプロジェクタで映写し，各機能について実際の作業を一緒に行いながら説明する。
単元ごとに練習問題を課し，復習を繰り返して知識と技術の定着を図る。

4　成績評価方法・基準
定期試験　40％　中間試験　40％　授業態度　20％

5　評価の際の特記事項
授業態度は，授業内課題への取り組み，質問への返答などを総合的に評価する。
通年科目だが，前期終了時に中間試験を実施する。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容
テキストに沿って予習・復習を行う。特に復習に注力し反復練習することで，操作が
定着して応用的な知識の習得へとつながる。

7　使用教材，教具
「よくわかる Microsoft Word 2021 & Microsoft Excel 2021 & Microsoft PowerPoint 2021」
（FOM 出版）

8　学生へのメッセージ
Office の操作に関する知識は，就職後必ず必要になりますし，日常生活でも役に立ちます。本授業で基本をしっかり身に付けると同時に，パソコン操作の楽しさを見出し，長期的なスキルアップにつなげていきましょう。

9　教員氏名（　家冨　浩人　）
所　　属（　こころ医療福祉専門学校　）

１０　特記事項
通常教員による授業科目

科目名（　福祉情報処理　）

回数	授業内容
1	PC とアプリケーション（Office2019）の全体説明
2	PowerPoint　基礎知識
3	PowerPoint　画面構成
4	PowerPoint　プレゼンテーションの確認
5	PowerPoint　プレゼンテーションの作成
6	PowerPoint　テーマ，プレースホルダ―の操作
7	PowerPoint　図形挿入と SmartArt グラフィックの作成
8	PowerPoint　練習問題１
9	PowerPoint　スライドショーの実行
10	PowerPoint　画面切り替え効果の設定
11	PowerPoint　アニメーションの設定
12	PowerPoint　プレゼンテーションの印刷
13	PowerPoint　開発者ツールの利用
14	PowerPoint　練習問題２
15	**中間試験**
16	**答案返却と解説**
17	Word　基礎知識
18	Word　文書作成
19	Word　グラフィック機能
20	Word　ワードでの表作成
21	Word　練習問題１
22	Word　練習問題２
23	Excel　基礎知識
24	Excel　データ入力
25	Excel　エクセルでの表作成
26	Excel　グラフの作成
27	Excel　データ分析
28	Word・Excel　アプリケーション間でのデータ共有
29	Excel　練習問題１
30	Excel　練習問題１
31	**定期試験**
32	**答案返却と解説**

シラバス（授業計画書）

科目名（　介護の基本Ⅱ　）

学科名　介護福祉科
学年　２年

１　授業の内容
介護を必要とする対象者の暮らしの理解・支援に関する基礎的知識や，多職種連携・協働による介護実践，介護における安全の確保とリスクマネジメントの必要性，また介護従事者自身の健康管理，労働環境について理解し，介護福祉士としての学びを深めていく。

２　到達目標
①介護を必要とする人の個別性と多様性について理解し，「その人らしさ」を支援することの意義について考えを述べることができる。
②多職種の専門性や役割と機能から，介護福祉士との連携・協働のあり方について考察できる。
③介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに，安全対策の必要性について述べることができる。

３　授業の方法
普通教室にて座学およびグループワーク

４　成績評価方法・基準
定期試験 30％　中間試験 30％　確認テスト 20％　授業態度 20％

５　評価の際の特記事項
授業内にて配付する課題やグループワークへの取り組み姿勢も考慮する。
通年科目だが，前期終了時に中間試験を実施する。

６　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容
授業を振り返り国家試験問題と照らし合わせて理解する。

７　使用教材，教具
最新・介護福祉士養成講座（第２版）　介護の基本Ⅱ　中央法規出版

８　学生へのメッセージ
介護を必要とする人の生活について理解を深め，介護福祉の専門職としての能力と態度を養いましょう。

９　教員氏名　（　廣瀬　佑　）
所　　属　（　こころ医療福祉専門学校　介護福祉科　）

１０　特記事項
通常教員による授業科目

科目名（　介護の基本Ⅱ　）

回数	授業内容
1	オリエンテーション・私たちの生活の理解
2	介護福祉を必要とする人たちの暮らし
3	「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解
4	生活のしづらさの理解とその支援
5	確認テスト①・解説
6	生活を支えるフォーマルサービス（社会的サービス）とは
7	生活を支えるインフォーマルサービス（私的サービス）とは
8	地域連携
9	確認テスト②・解説
10	介護における安全の確保
11	リスクマネジメントとは何か
12	感染症対策
13	確認テスト③・解説
14	前期まとめ
15	中間試験
16	答案返却と解説
17	多職種連携・協働の必要性
18	多職種連携・協働に求められる基本的な能力
19	協働する多職種の理解
20	協働する多職種の機能と役割①
21	協働する多職種の機能と役割②
22	他職種連携・協働の実際
23	確認テスト④・解説
24	介護従事者の安全　－健康管理の意義と目的－
25	健康管理に必要な知識と技術①　こころの健康管理
26	健康管理に必要な知識と技術②　身体の健康管理
27	安心して働ける環境づくり
28	労働者の安全・安心を守る法律
29	確認テスト⑤・解説
30	後期まとめ
31	定期試験
32	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　介護の基本Ⅲ　）

学科名　介護福祉科
学年　２年

1　授業の内容
介護の基本Ⅰ・Ⅱで学習したことを振り返り，カリキュラムにおける領域「介護」の分野に含まれる福祉の歴史，制度，法律などを中心に復習する。
国家試験対策に準じた授業を行う。

2　到達目標
介護福祉の基本となる理念や，地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し，介護福祉の専門職としての能力と態度を理解できる。
国家試験合格に必要な試験問題の読解力を身に付ける。

3　授業の方法
現場で求められる専門的知識を理解し，身に付ける。国家試験対策として，国家試験過去問題，模擬問題を中心に講義・解説を行う。

4　成績評価方法・基準
定期試験 60％　小テスト 20％　授業態度 20％

5　評価の際の特記事項
国家試験に向けた重要な位置づけの授業であるため，国家試験合格に向けた学習意欲を含めて評価する。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容
授業内で取り組んだ問題は解説を行うが，教科書・参考書等による自己学習を行い，確実な知識の定着を図る。

7　使用教材，教具
配布資料，介護福祉士国試ナビ，その他授業内で指定した教材

8　学生へのメッセージ
解説した問題については確実に見直し，同様の問題は確実に正解できる力を身に付ける必要があります。そのためには授業内容だけでは不十分です。確実に知識を定着させるための自己学習の習慣を身に付けましょう。

9　教員氏名（　谷口　幸太郎　）
所　　属（　こころ医療福祉専門学校　介護福祉科　）
経　　験（　介護施設にて介護福祉士として勤務経験あり　）

１０　特記事項
実務経験のある教員による授業科目

科目名（　介護の基本Ⅲ　）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	理解度チェックテスト・解説
3	介護の基本についての整理
4	介護の基本分野の模擬問題，解答解説
5	介護保険，社会保障関連についての整理
6	介護保険，社会保障関連の模擬問題，解答解説
7	介護の基本分野の模擬問題，解答解説
8	介護の基本分野の模擬問題，解答解説
9	障害者総合支援法関連についての整理
10	障害者総合支援法関連の模擬問題，解答解説
11	国家試験模擬問題午後の部解説
12	国家試験模擬問題午後の部解説
13	国家試験模擬問題午後の部解説
14	国家試験模擬問題午後の部解説
15	国家試験模擬問題午後の部解説
16	国家試験模擬問題午後の部解説
17	介護保険法についての整理
18	介護保険法についての整理
19	介護過程，尊厳，自立支援関連の模擬問題解説
20	介護過程，尊厳，自立支援関連の模擬問題解説
21	障害者総合支援法関連模擬問題解説
22	障害者総合支援法関連模擬問題解説
23	生活支援技術関連模擬問題解説
24	生活支援技術関連模擬問題解説
25	尊厳，自立支援関連〇×問題
26	制度関連〇×問題
27	介護の基本関連〇×問題
28	生活支援技術関連〇×問題
29	まとめ
30	定期試験
31	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　　　　生活支援技術Ｂ（実技応用）　　　）

学科名　　介護福祉科

学年　　２年

1　授業の内容

介護サービスを提供するあらゆる場面で汎用できる基本的な介護の技術を理解する。尊厳の保持や自立・自律を尊重し潜在能力を引き出すことができる。見守り介助などを含め，適切な介護技術を用いて安全に援助できる技術や知識を身につける。

2　到達目標

①生活支援の理解に関する知識と具体的な支援方法を学ぶとともに，様々な生活場面において自立の支援の観点から根拠に基づいた介護が実践できるようになる。

②利用者の自立した生活の支援のために適した介護計画を立案し、状況に合わせ計画的に技術および福祉用具を選択、活用することができるようになる。

③終末期の経過に沿った支援とチームケア・チームアプローチについて役割を実践できるようになる。

3　授業の方法

普通教室にて講義，介護実習室にて実技の授業を行う。

4　成績評価方法・基準

定期試験　　40%　　事例検討（実技）　40%　　授業態度　10%　　授業への貢献度　10%

5　評価の際の特記事項

授業態度やグループワークでの役割などを考慮します。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業内でおこなった学習を放課後や自宅でも振り返り，繰り返し練習することで身につけるようにしてください。また，国家試験に出題されるキーワードについては，教科書にマーカーをつけ覚えるようにします。

7　使用教材，教具

最新・介護福祉士養成講座（第２版）　生活支援技術Ⅰ　中央法規出版

最新・介護福祉士養成講座（第２版）　生活支援技術Ⅱ　中央法規出版

8　学生へのメッセージ

授業内でも声をしっかり出していきましょう。

9　教員氏名（　谷口　幸太郎／井手口　弘明　　　　　　　　）

所　　属（　こころ医療福祉専門学校　介護福祉科　　　　　　）

経　　験（　両名とも介護施設にて介護福祉士として勤務経験あり　）

１０　特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（　生活支援技術Ｂ（実技応用）　）

回数	授業内容
1	食事の介護
2	食事の介護
3	食事の介護
4	食事の介護
5	排泄の介護
6	排泄の介護
7	排泄の介護
8	排泄の介護
9	排泄の介護
10	排泄の介護
11	排泄の介護
12	排泄の介護
13	人生の最終段階における介護
14	人生の最終段階における介護
15	人生の最終段階における介護
16	人生の最終段階における介護
17	事例に基づく介護技術の検討
18	事例に基づく介護技術の検討
19	事例に基づく介護技術の検討
20	事例に基づく介護技術の検討
21	事例に基づく介護技術の検討
22	事例に基づく介護技術の検討
23	介護技術に関する事例検討発表
24	介護技術に関する事例検討発表
25	入浴･清潔保持の介護
26	入浴･清潔保持の介護
27	入浴･清潔保持の介護
28	入浴･清潔保持の介護
29	まとめ
30	定期試験
31	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　生活支援技術Ｄ（栄養／調理）　）

学科名　介護福祉科

学年　２年

1　授業の概要

食文化や食生活の変化をはじめ，介護福祉士が食の支援を行う上で必要な知識を学習する。担当教員の実務経験を基に，実際の介護現場を想定しつつ，介護を要する方への「食」の支援に必要な知識，技術を身につける。

2　到達目標

それぞれの授業について，キーワードを５個あげて，それについて簡単な説明ができ，調理実習の手順を理解し，料理をきれいに盛りつけできる。

3　授業の方法

栄養，調理に関する知識を深めるため，座学を行った後，実際に調理室にて実習を行う。

4　成績評価方法・基準

定期試験	55%	レポート	5%
小テスト	10%	授業態度	20%
調理実習試験	10%		

5　評価の際の特記事項

授業の出席率，質問の返答，調理実習の積極性も重視します。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

「調理」ができるだけではなく，必要な栄養を提供できるよう，栄養に関する知識を身に着ける必要があります。事前に教科書を読むこと，授業後にも教科書，配付資料の読み直し，小テストの復習を行ってください。

7　使用教材，教具

最新・介護福祉士養成講座（第２版）　生活支援技術Ⅰ　中央法規出版

授業内配付プリント

8　学生へのメッセージ

日常生活の中で，「食」を意識して，授業に臨んでください。調理実習のための忘れ物がないようにしてください。遅刻，欠席をすると授業についていけなくなりますので注意してください。

9　教員氏名　　（　山﨑　佳代　）

所　　属　　（　介護老人福祉施設　牧島荘　）

実務経験の詳細（　介護施設にて管理栄養士として勤務　）

１０　特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（　生活支援技術Ｄ（栄養／調理）　）

回数	授業内容
1	食文化・食生活・栄養の理解
2	調理実習（調理の基本）
3	栄養の理解
4	調理実習（調理の基本・食品の保存・食品衛生）
5	献立の立て方・食品の購入と選択
6	調理実習（調理の基本，食品衛生）
7	食品の調理性
8	調理実習
9	高齢者の身体機能と栄養
10	調理実習（高齢者の食事と調理）
11	障害のある人の栄養と食生活
12	調理実習
13	調理実習（楽しい食事の演出）
14	調理実習（楽しい食事の演出）
15	疾患と食事
16	調理実習
17	食生活に関する施策について
18	調理実習
19	調理の支援とは何か
20	調理プロセスとアセスメント
21	利用者宅での調理方法と進め方
22	調理実習
23	施設における調理介助
24	調理実習
25	調理上のさまざまな工夫や活用
26	調理実習
27	ともに行う介護の視点
28	調理実習
29	まとめ
30	定期試験
31	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　生活支援技術Ｆ（内部障害）　）

学科名　介護福祉科
学年　２年

1　授業の内容
障害のある人の心理や身体機能，社会的側面に関する基礎的な知識を習得すると共に，障害のある人の地域での生活を理解し，本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習させる。
また，その人の状況に合わせた介護を行い，障害などがあってもこれまでの生活が継続されるように，現在の状態を把握し潜在能力を引出し，自立を目指して，できる可能性を伸ばしていく個別性を重視した介護の展開について学んでいく。

2　到達目標
身体的な理解と心理的な理解に加え，介護を要する人たちが尊厳を持って，日々その人らしく暮らしていけるように支援するための考え方や技法を習得できるよう学習を行う。生活全体を見ながらどのように生活をしていきたいのか，どのように支援することが適切か，潜在能力が導き出せるかなどに着目し，状況に応じた介護技術が提案できる。

3　授業の方法
教科書使用し，国家試験を見据えて重要項目を重点的に講義する。

4　成績評価方法・基準
定期試験　70%　　授業態度　10%　　小テスト　20%

5　評価の際の特記事項
小テストでの，障害に応じた介護のポイント確認。グループワークでの積極性を判断する。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容
教科書の予習・復習をすること。授業で配布する資料は各自がファイリングすること。

7　使用教材，教具
最新・介護福祉士養成講座（第２版）　生活支援技術Ⅲ　中央法規出版
最新・介護福祉士養成講座（第２版）　障害の理解　中央法規出版

8　学生へのメッセージ
こころとからだのしくみ，発達と老化の理解との関連を意識すると理解が深まる。

9　教員氏名　（　吉田　直美　）
所　属　（　こころ医療福祉専門学校　介護福祉科　）
実務経験の詳細（　病院，介護施設にて看護師として勤務経験あり　）

１０　特記事項
実務経験のある教員による授業科目

科目名（生活支援技術Ｆ（内部障害）　）

回数	授業内容
1	心臓機能障害の理解
2	心臓機能障害の方の観察の視点･支援の展開
3	呼吸機能障害の理解
4	呼吸機能障害の方の観察の視点･支援の展開
5	腎機能能障害の理解
6	腎臓機能障害の方の観察の視点･支援の展開
7	膀胱･直腸機能障害の理解
8	膀胱･直腸機能障害の方の観察の視点･支援の展開　パウチ交換
9	小腸機能障害の理解　　小腸機能障害の方の観察の視点･支援の展開
10	HIV 感染症の理解　　観察の視点･支援の展開
11	肝臓機能障害の理解
12	肝臓機能障害の方の観察の視点･支援の展開
13	重症心身障害児の理解　観察の視点･支援の展開
14	全体まとめ
15	定期試験
16	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　介護過程Ⅱ（ケアマネジメント）　）

学科名　介護福祉科

学年　２年

1　授業の概要

介護過程の展開の理解し，本人の望む生活の実現に向けて，生活課題の分析，根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を取得する学習とする。

また，ケアマネジメントについて学び，ケアプランと介護計画（個別援助計画）の関係性と違いを理解するための学習を行う。

2　到達目標

①介護計画（個別援助計画）の立案に向けて，根拠に基づいた課題の抽出および目標を立案できる。

②5W1H を踏まえた，介護計画（個別援助計画）を立案できる。

3　授業の方法

教科書，参考事例を基に事例検討等，講義，演習を行う。

4　成績評価方法・基準

提出物（事例検討）　70%　　授業態度　10%　　演習への取り組み　20%

5　評価の際の特記事項

提出物（事例検討）は 15 回目の提出物で評価します。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

介護過程Ｉの内容を理解していることが前提の授業になります。教科書等でしっかりと復習を行いましょう。

7　使用教材，教具

最新・介護福祉士養成講座（第２版）　介護過程　中央法規出版，配付資料

8　学生へのメッセージ

第３段階実習に向けて，介護過程の展開の一連のプロセスをしっかりと理解しましょう。

9　教員氏名　（　谷口　幸太郎　）

所　　属　（　こころ医療福祉専門学校　介護福祉科　）

実務経験の詳細（　介護施設にて介護福祉士として勤務経験あり　）

１０　特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（　介護過程Ⅱ（ケアマネジメント）　）

回数	授業内容
1	オリエンテーション　ケアマネジメント
2	ケアプランと介護計画
3	ケアマネジメントの流れ
4	介護計画の立案について①
5	介護計画の立案について②
6	介護計画の立案（演習）
7	介護計画の立案（グループ演習）
8	介護計画の立案（グループ演習）
9	介護計画の実施・評価
10	事例から介護計画の立案１－①
11	事例から介護計画の立案１－②
12	事例から介護計画の立案１－③
13	事例から介護計画の立案２－①
14	事例から介護計画の立案２－②
15	事例から介護計画の立案２－③

シラバス（授業計画書）

科目名（　介護過程Ⅲ（演習）　）

学科名　　介護福祉科

学年　　２年

1　授業の概要

第３段階実習で展開した介護過程について，実習指導者に参加を依頼したうえで事例検討発表会を実施する。そのための準備作業を進め，発表資料を作成する。発表後は，国家試験に向けた演習を行う。

2　到達目標

・実習で展開した介護過程について振り返りを行い，対象利用者にとって本当に必要な援助は何なのか，再検討することができる。
・自分が行った支援内容，今後の課題について冷静に分析することができる。
・聴き手に伝わる発表ができる。

3　授業の方法

パソコン室にて実施。学生自身が第３段階実習で実施した介護過程の展開の資料を基に発表資料の作成を進める。第３段階実習からこの授業は始まっている。卒業生が実習時に関わった事例なども参考にしながら，事例検討のためのアセスメント力や，よりよい発表のためのプレゼンテーション能力を身につける。

4　成績評価方法・基準

事例検討発表（第３段階実習）60%　　提出物 20%　　授業態度　20%

5　評価の際の特記事項

評価項目「事例検討発表」については，発表の内容や態度，発表資料の構成などを総合的に判断し評価する。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

提出期限を厳守するためにも，計画的に資料作成を進める。

7　使用教材，教具

最新・介護福祉士養成講座（第２版）　介護過程　中央法規出版

8　学生へのメッセージ

事例検討がよりよいものとなるよう，実習段階で十分なアセスメントを行ってください。
実習中からこの授業は始まっています。対象利用者様を思う心を養いましょう。

9　教員氏名　　（　廣瀬　佑　　　　　　　　　　　　）
　所　　属　　（　こころ医療福祉専門学校　介護福祉科　　　）

１０　特記事項

通常教員による授業科目

科目名（　介護過程Ⅲ（演習）　）

回数	授業内容
1	オリエンテーション（授業の進め方について）
2	第3段階実習の振り返り
3	事例検討発表のための本文，抄録作成
4	事例検討発表のための本文，抄録作成
5	発表用資料の作成（パワーポイント資料）
6	発表用資料の作成（パワーポイント資料）
7	発表用資料の作成（パワーポイント資料，発表原稿の作成）
8	発表用資料の作成（パワーポイント資料，発表原稿の作成）
9	発表用資料の作成（パワーポイント資料，発表原稿の作成）
10	発表用資料の作成（パワーポイント資料，発表原稿の作成）　最終提出
11	事例検討発表会練習
12	事例検討発表会練習
13	事例検討発表会の振り返り
14	事例検討発表会の振り返り
15	国家試験対策授業，模擬試験
16	国家試験対策授業，模擬試験
17	国家試験対策授業，模擬試験
18	国家試験対策授業，模擬試験
19	国家試験対策授業，模擬試験
20	国家試験対策授業，模擬試験
21	国家試験対策授業，模擬試験
22	国家試験対策授業，模擬試験
23	国家試験対策授業，模擬試験
24	国家試験対策授業，模擬試験
25	国家試験対策授業，模擬試験
26	国家試験対策授業，模擬試験
27	介護過程の展開に関する振り返り，今後の課題
28	介護過程の展開に関する振り返り，今後の課題
29	介護過程の展開に関する振り返り，今後の課題
30	介護過程の展開に関する振り返り，今後の課題

シラバス（授業計画書）

科目名（　介護総合演習Ⅱ　）

学科名　　介護福祉科

学年　　　２年

1　授業の概要

介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに，介護観を形成し，専門職としての態度を養う学習をする。最終実習終了後は，事例検討発表会の準備，国家試験に向けた授業も行う。

2　到達目標

①様々な生活の場において，個別ケアを理解し，利用者・家族とのコミュニケーションの実践，介護技術の確認，多職種協働や関係機関との連携を通じて，チームの一員としての介護福祉士の役割について理解できるようになる。

②実習を振り返り，専門職としての態度を養うことができる。

・実習で得たこと，課題となったこと，課題を達成するためにどのような取り組みをするかプレゼンテーションできる。

・「介護福祉士」として自分は「対象者に対し何をする人か」を自ら考え、その内容に基づいた行動指針および行動計画を掲げることができる。

3　授業の方法

実習に必要な心構え，マナー，介護に必要な知識，技術を身につけるため，これまでの卒業生の事例，教科書や配付資料，実習記録を用いながら演習，講義を行う。

4　成績評価方法・基準

実習報告会（第２段階）40%　　授業態度 20%　　提出物 20%　　レポート 20%

5　評価の際の特記事項

特になし

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

事前学習：実習施設の概要，目標，個人票は，自宅で考案し教員に許可を得る。

7　使用教材，教具

最新　介護福祉士養成講座　介護総合演習・介護実習，配付資料，実習記録，実習成果物

8　学生へのメッセージ

介護実習の意義を理解し，実習前，実習中，実習後に必要な学習内容を一つひとつ確認していきましょう。他の科目との関連性，学校での学びと実習との関連性について理解していきましょう。

9　教員氏名（　廣瀬　佑　　　　　　　　　　　　　　）

所　　属（　こころ医療福祉専門学校　介護福祉科　　　　）

１０　特記事項

通常教員による授業科目

科目名（　介護総合演習Ⅱ　）

回数	授業内容
1	第2段階実習の振り返り
2	実習報告会準備
3	実習報告会準備
4	実習報告会準備
5	実習先選定
6	実習目標の作成
7	実習目標の作成
8	実習目標の作成
9	個別援助計画書作成のための事例検討
10	個別援助計画書作成のための事例検討
11	個別援助計画書作成のための事例検討
12	個別援助計画書作成のための事例検討
13	個別援助計画書作成のための事例検討
14	個別援助計画書作成のための事例検討
15	個別援助計画書作成のための事例検討
16	第3段階実習の振り返り
17	事例検討発表会準備（本文作成，アセスメント内容）
18	事例検討発表会準備（本文作成，アセスメント内容）
19	事例検討発表会準備（本文作成，実施状況）
20	事例検討発表会準備（本文作成，実施状況）
21	事例検討発表会準備（本文作成，考察、結論，まとめ）
22	事例検討発表会準備（パワーポイント資料作成）
23	事例検討発表会準備（発表練習）
24	事例検討発表会準備（発表準備）
25	事例検討発表会準備（発表準備）
26	国家試験模擬試験解答・解説
27	国家試験模擬試験解答・解説
28	国家試験模擬試験解答・解説
29	国家試験模擬試験解答・解説
30	まとめ

シラバス（授業計画書）

科目名（　介護実習　）

学科名　介護福祉科

学年　１，２年

1　授業の概要

福祉施設にて１年次に１０日間(第１段階)，２２日間(第２段階)の実習を，２年次に２５日間（第３段階）の介護実習を行う。

2　到達目標

【第１段階実習】

ア　専門職としての適性およびふさわしい態度を理解する。

イ　介護が必要な人のニーズやさまざまな暮らしの場を理解する。

ウ　介護施設、ならびに介護福祉職の一般的な役割について理解する。

エ　コミュニケーションの基礎的な技術を実践することができる。

オ　尊厳を支えるケアや本人主体の自立支援の理解を深めることができる。

【第２段階実習】

ア　専門職としての適性およびふさわしい態度を実践できる。

イ　一人の利用者に関するアセスメントをし、生活課題を明確化できる。

ウ　個別の状況に応じた生活支援技術を模倣できる。

エ　介護現場における多職種協働・連携について理解することができる。

オ　コミュニケーション能力の向上につとめ、利用者及び職員と人間関係を構築することができる。

【第３段階実習】

ア　専門職としての適性およびふさわしい態度を身につける。

イ　利用者の個別性を理解した上で、介護過程を展開することができる。

ウ　個別の状況に応じた生活支援技術を選択し，実施できる。

エ　様々な介護福祉関連業務を経験することができる。

オ　介護現場における地域とのつながりについて理解することができる。

3　授業の方法

介護を必要とする人への支援のあり方や関わりについて、各授業で習得した知識や技術を用いて実際の介護現場で見学、模倣、実施から学ぶ実習である。

4　成績評価方法・基準

実習評価表　30％　　巡回指導時の学習態度　20％　　実習記録　　20％　　実習成果物　30％

5　評価の際の特記事項

評価はすべての実習が終了した２年次後期に行います。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各科目の教科書，実習の手引き，実習施設の資料など熟読すること。

7　使用教材，教具

介護実習の手引き，配布資料

8　学生へのメッセージ

何を学びたいのか明確にした上で，積極的に取り組みましょう。

9　教員氏名　　　（　谷口　幸太郎，吉田　直美，廣瀬　佑　）
所　　属　　　（　こころ医療福祉専門学校　介護福祉科　）
実務経験の詳細　谷　口：介護施設にて介護福祉士として勤務経験あり
吉　田：病院，介護施設にて看護師として勤務経験あり

１０　特記事項
実務経験のある教員による授業科目
科目名（　介護実習　）

回数	授業内容
第1段階	【実習期間，時間】　第１段階実習　１年次７月　８０時間（１日８時間×１０日間）
	【実習内容】 第１段階実習は、コミュニケーションを中心に、介護が必要な人のニーズや暮らしの場の理解、並びに介護福祉職の一般的な役割について理解をする。また、様々な対象者へのケアを見学し、個々に応じた生活支援技術の実際を学び、尊厳を支えるケアや介護に本人主体の自立支援についての理解を深める。
	【実施項目】 ア　介護を必要とする人とのコミュニケーションを経験する。 イ　介護実践の現場における生活支援技術を見学する。
第2段階	【実習期間，時間】　第２段階実習　１年次２～３月　１７６時間（１日８時間×２２日間）
	【実習内容】 第２段階実習は、介護過程におけるアセスメントを行い、生活課題の明確化まで行う実習です。一人の利用者への直接的な情報収集や他職種、介護記録等からの間接的な情報収集を通して、生活の全体像や本人の想い（ニーズ）を理解し、生活課題を明確化していきます。また、様々な利用者へのケアを通して、個々に応じたコミュニケーションの実践、生活支援技術の模倣、実施を経験し、技術の向上につとめます。
	【実施項目】 ア　介護過程におけるアセスメントを実施する。 イ　個別の状況に応じた生活支援技術を見学、及び模倣する。 ウ　様々な対象者に応じたコミュニケーションを、学んだ技術を用いて実践する。 エ　介護現場におけるレクリエーションを経験する。（可能な場合に限る）
第3段階	【実習期間，時間】　第３段階実習　２年次８～９月　２００時間（１日８時間×２５日間）
	【実習内容】 第３段階実習は、介護過程の展開を実践する実習です。一人の利用者に対して、「アセスメント→介護計画の立案→介護の実施→評価」を行い、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程の展開を実践的に学ぶと共に，介護福祉士の専門性について理解を深めます。また養成課程最後の実習であり、これまで授業で学んだ知識や技術を統合した上で、介護福祉職として必要な知識・技術の習得・向上につとめます。
	【実施項目】 ア　一人の対象者に関するアセスメントを行い、介護計画を作成する。 イ　作成した介護計画をもとに、介護の実施を行い、評価を行う。 ウ　個別の状況に応じた生活支援技術を模倣、及び実施する。 エ　早出・遅出・夜勤等の業務を経験する。（可能な場合に限る） オ　レクリエーションを企画し、実施する。（可能な場合に限る）

シラバス（授業計画書）

科目名（　障害の理解Ⅱ　）

学科名　介護福祉科
学年　２年

1　授業の内容
障害のとらえ方について，医学モデル，社会モデル，国際生活機能分類（ICF），各法律から学び，理解を深める。

2　到達目標
障害者の介護にあたる際の基本的知識を身につける。

3　授業の方法
教科書を使用し，国家試験を見据えて重要項目を重点的に講義する。

4　成績評価方法・基準
定期試験 60%　確認テスト 20%　授業態度 20%

5　評価の際の特記事項
授業態度については，積極性や質問への回答などを総合的に評価する。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容
授業前にテキスト等で予習しておく。

7　使用教材，教具
最新・介護福祉士養成講座（第２版）　障害の理解　中央法規出版

8　学生へのメッセージ
制度については覚えなければならないことが多くあります。繰り返し学習して，まずは国家試験に対応できる知識として定着させ，将来の介護実践に活かしましょう。

9　教員氏名　（　廣瀬　佑　）
所　属　（　こころ医療福祉専門学校　介護福祉科　）

１０　特記事項
通常教員による授業科目

科目名（　障害の理解Ⅱ　）

回数	授業内容
1	障害の概念
2	障害者福祉の基本理念①
3	障害者福祉の基本理念②
4	障害者福祉に関連する制度
5	障害者福祉制度と介護保険制度
6	確認テスト①・解説
7	連携と協働①　地域のサポート体制
8	連携と協働②　チームアプローチ
9	確認テスト②・解説
10	障害がある人の家族への支援
11	家族の介護力の評価と介護負担の軽減
12	確認テスト③・解説
13	まとめ
14	国家試験過去問題演習
15	定期試験
16	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　こころとからだのしくみⅡ　）

学科名　　介護福祉科

学年　　２年

1　授業の内容

介護を必要とする人の生活支援を行うため，介護実践の根拠となる人間の心理，人体の構造や機能を理解する学習

2　到達目標

・介護実践に必要な観察力,判断力の基礎となる人間の心理,人体の構造と機能の基礎的な知識を理解する。
・生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として，生活支援の場面に応じた，こころとからだのしくみおよび機能低下や障害が生活に及ぼす影響につい理解する。
・人生の最終段階にある人と家族を支援するため，終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び，生活支援を行うために必要となる基礎的な知識を理解する。

3　授業の方法

PC とプロジェクターを利用したパワーポイントによる講義である。教科書を使用し，講義内容を，国家試験を見据えて重要項目を重点的に講義する。

4　成績評価方法・基準

定期試験　40％　　中間試験　40％　　授業態度　10％　　小テスト　10％

5　評価の際の特記事項

小テストも評価します。通年科目ですが，前期終了時に中間試験を実施します。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画表に沿って，事前に教科書の予習・復習すること。特に復習をすることで知識が定着する。
授業で配付する資料は各自がファイリングすること。９月からは，国家試験対策都して補講を実施する。

7　使用教材，教具

最新・介護福祉士養成講座（第２版）　こころとからだのしくみ　　中央法規出版
介護福祉士国家試験模擬試験問題集

8　学生へのメッセージ

人が生活をするうえで，心と体はどのように働くのか示し，介護実践に必要な観察力，判断力の基盤となる知識を学びます。さらに疾病の発生のメカニズムを学ぶことによって,「予防の視点」を身につけましょう。
また，移動，身支度，食事，入浴，排泄，睡眠等の生活場面ごとに，心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響，変化に対する観察のポイント，医療職との連携のポイントを知りましょう。
国家試験に備えて苦手分野の克服，自信をもって国家試験に臨めるよう数多くの問題に挑戦しましょう。

9　教員氏名　　　（　吉田　直美　）
所　　属　　　（　こころ医療福祉専門学校　介護福祉科　）
実務経験の詳細　（　病院，介護施設にて看護師として勤務経験あり　）

１０　特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（　こころとからだのしくみⅡ）

回数	授業内容
1	復習　からだのしくみの理解：人体の各名称・構造・脳神経
2	復習　からだのしくみの理解：循環器・呼吸器・消化器
3	復習　からだのしくみの理解：泌尿器・骨・筋肉
4	復習　からだのしくみの理解：生殖器・内分泌・バイタルサイン
5	復習　こころのしくみの理解：マズローの欲求階層説・適応規制
6	復習　こころのしくみの理解：認知・記憶・
7	復習　からだのしくみの理解：確認テスト
8	復習　身じたくに関連したこころとからだのしくみ
9	復習　移動に関連したこころとからだのしくみ
10	復習　食事に関連したこころとからだのしくみ
11	復習　入浴に関連したこころとからだのしくみ
12	復習　排泄に関連したこころとからだのしくみ
13	復習　睡眠に関連したこころとからだのしくみ
14	復習　死にゆく人のこころとからだのしくみ
15	中間試験
16	答案返却と解説
17	こころとからだのしくみ　模擬試験過去問（中央法規①）
18	解説①
19	こころとからだのしくみ　模擬試験過去問（中央法規②）
20	解説②
21	こころとからだのしくみ　模擬試験過去問（中央法規③）
22	解説③
23	こころとからだのしくみ　模擬試験過去問（中央法規④）
24	解説④
25	こころとからだのしくみ　模擬試験過去問（介護福祉士会①）
26	解説①
27	こころとからだのしくみ　模擬試験過去問（介護福祉士会②）
28	解説②
29	こころとからだのしくみ　模擬試験過去問（学力評価試験①）
30	解説①
31	定期試験
32	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（医療的ケアⅡ　）

学科名　　介護福祉科

学年　２年

1　授業の内容

医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携の下で医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。

2　到達目標

①喀痰吸引について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的知識、実施手順方法を理解する。
②経管栄養について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的知識、実施手順方法を理解する。
③安全な喀痰吸引・経管栄養の実施の為、確実な手技を習得する。

3　授業の方法

PC とプロジェクターを利用したパワーポイントによる講義のほか器具の名称，感染対策，手順を理解させる為座学以外に演習も行う。

4　成績評価方法・基準

定期試験　80％　　授業態度　20％

5　評価の際の特記事項

命を預かる行為です。真面目な態度で取り組んでください。授業態度は重視します。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実際の演習はできませんが、器具の名称，手順はシミュレーションが必要です。

7　使用教材，教具

最新・介護福祉士養成講座（第２版）　　医療的ケア　　中央法規出版

8　学生へのメッセージ

介護保険法等一部改正法により、平成２７年度以降は介護福祉士がその業務として喀痰吸引等を行うことが可能となったため、介護福祉士養成施設の養成課程においても、医療的ケア（喀痰吸引等）に関する教育を行うことが必要となりました。
厳しいですが、命を預かる行為です。真面目な態度で取り組んでください。

9　教員氏名　　　（　吉田　直美　　　　　　　　　　　　）
所　　属　　　（　こころ医療福祉専門学校　介護福祉科　　　）
実務経験の詳細（　介護施設にて看護師としての実務経験あり　）

１０　特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（　医療的ケアⅡ　）

回数	授業内容
1	医療的Ⅰの分野の振り返り①（呼吸器系・消化器系のしくみ）
2	医療的Ⅰの分野の振り返り②（介護保険制度・障害者総合支援法について）
3	医療的Ⅰの分野の振り返り③（健康状態・バイタルサイン）
4	喀痰吸引(基礎知識・実施手順)
5	喀痰吸引(基礎知識・実施手順)
6	喀痰吸引(基礎知識・実施手順)
7	喀痰吸引(基礎知識・実施手順)
8	経管栄養(基礎知識・実施手順)
9	経管栄養(基礎知識・実施手順)
10	経管栄養(基礎知識・実施手順)
11	経管栄養(基礎知識・実施手順)
12	喀痰吸引の手引き
13	経管栄養の手引き
14	医療的ケアの分野の国家試験過去問実施・解説
15	医療的ケアの分野の国家試験過去問実施・解説
16	これまでのまとめ
17	定期試験
18	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　医療的ケアⅢ　演習　）

学科名　　介護福祉科

学年　２年

1　授業の内容

医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携の下で医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。

2　到達目標

①喀痰吸引について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的知識、実施手順方法を理解の確認とし演習を実施。
②経管栄養について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的知識、実施手順方法を理解の確認とし演習を実施。
③安全な喀痰吸引・経管栄養の実施の為、確実な手技を習得状況を確認する。

3　授業の方法

- 喀痰吸引：口腔（５回以上)、鼻腔（５回以上)、気管カニューレ内部（５回以上）
- 経管栄養：胃ろう又は腸ろう（５回以上)、経鼻経管栄養（５回以上）

※併せて、救急蘇生法演習についても１回以上実施する。

4　成績評価方法・基準

実技試験　80%　　授業態度　20%

5　評価の際の特記事項

命に係わる授業であるため，授業態度は厳しく判断します。
授業の方法にある各５回の演習を修了したもののみ、実技試験を受験できます。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

追加演習を繰り返し、確実に実施できるようになること。そのため時間外の指導も行います。

7　使用教材，教具

最新・介護福祉士養成講座（第２版）　こころとからだのしくみ　中央法規出版
最新・介護福祉士養成講座（第２版）　医療的ケア　中央法規出版

8　学生へのメッセージ

介護保険法等一部改正法により、平成２７年度以降は介護福祉士がその業務として喀痰吸引等を行うことが可能となったため、介護福祉士養成施設の養成課程においても、医療的ケア（喀痰吸引等）に関する教育を行うことが必要となりました。
厳しいですが、命を預かる行為です。真面目な態度で取り組んでください。

9　教員氏名　（　吉田　直美　／　中島　幹子　）
所　　属　（　吉田：こころ医療福祉専門学校　介護福祉科　）
実務経験の詳細（　吉田／中島：病院，介護施設にて看護師として勤務経験あり　）

１０　特記事項

実務経験のある通常教員による授業科目

科目名（　医療的ケアⅢ　演習　　　　）

回数	授業内容
1	演習オリエンテーション　喀痰吸引 5 回以上：経管栄養 5 回以上必須　演習①
2	喀痰吸引・経管栄養・　②
3	喀痰吸引・経管栄養・　③
4	喀痰吸引・経管栄養・　④
5	喀痰吸引・経管栄養・　⑤
6	喀痰吸引・経管栄養・　⑥
7	喀痰吸引・経管栄養・　⑦
8	喀痰吸引・経管栄養・　⑧
9	喀痰吸引・経管栄養・　⑨
10	喀痰吸引・経管栄養・　⑩
11	喀痰吸引・経管栄養・　⑪
12	喀痰吸引・経管栄養・　⑫
13	喀痰吸引・経管栄養・　⑬
14	喀痰吸引・経管栄養・　⑭
15	喀痰吸引・経管栄養・　⑮
16	喀痰吸引・経管栄養・　⑯
17	喀痰吸引・経管栄養・　⑰
18	喀痰吸引・経管栄養・　⑱
19	喀痰吸引・経管栄養・　⑲
20	喀痰吸引・経管栄養・　⑳
21	喀痰吸引・経管栄養・　㉑
22	喀痰吸引・経管栄養・　㉒
23	喀痰吸引・経管栄養・　㉓
24	喀痰吸引・経管栄養・　㉔
25	喀痰吸引・経管栄養・　㉕
26	バイタル測定　・実施
27	救急蘇生法　　急変時の対応実践　報告
28	実技試験
29	実技試験
30	まとめ・評価

シラバス（授業計画書）

科目名（　整体療法学　）

学科名　　介護福祉　科
学年　　2　年

1　授業の内容
　解剖学や経穴を合わせながら、体へ触れることに慣れ、基礎的な手技を学ぶ。

2　到達目標
　施術部位の解剖がイメージでき、基礎的な手技と筋肉への正しいアプローチ方法を習得する。

3　授業の方法
　資料や模型を使用しながらの骨・筋肉を理解する。施術ペアを組み、学んだ手技を繰り返し練習する。手技チェックあり。

4　成績評価方法・基準
　実技試験　50%、定期試験　50%

5　評価の際の特記事項
　定期試験は解剖学の筆記試験を実施。
　実技試験は施術習得度合いの確認や正確性を総合的に評価します。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容
　施術練習では骨や筋肉名で説明するので、解剖学の理解は必須です。
　手技に関しては授業外でも復習することで技術力 UP につながります。

7　使用教材，教具
　参考資料や施術写真などをまとめたテキストを配布します。骨・筋肉模型を利用するときもあります。

8　学生へのメッセージ
　施術される前と後の体験をして、自分自身がそれを実践して体がほぐれる感覚や相手に喜んでもらえる嬉しさを感じ取ってほしいです。習得した技術や知識は現場でも活かせると思います。また、高齢者の方を相手にしますので常に危険と隣り合わせという意識を持って授業に臨んでください。

9　教員氏名　　　（　永田　俊晴　）
　所　　属　　　（　こころ医療福祉専門学校　スポーツ柔整科　　）
　実務経験の詳細（　施術所で施術者として実務経験あり　）

１０　特記事項
　実務経験のある教員による授業科目

科目名（　整体療法学　）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	基本手技
3	手技の効果
4	足関節、足底部、下腿部の手技
5	整体療法でできること、できないこと
6	膝窩部、大腿部の手技
7	整体療法の禁忌、注意事項
8	股関節、臀部、仙骨部の手技
9	全身骨格
10	腰部、背部の手技
11	動く結合、動かない結合
12	脊柱の手技
13	関節の種類
14	肩甲部、肩部、上肢部の手技
15	体幹骨の種類と構造
16	頸部、頭部、顔部の手技
17	四肢骨の種類と構造
18	胸部、腹部の手技
19	筋の構造
20	下半身の手技（応用）
21	筋の種類
22	上半身の手技（応用）
23	体幹筋の種類と機能
24	仰臥位の手技
25	上肢筋の種類と機能
26	総合手技
27	下肢筋の種類と機能
28	実技復習
29	定期試験（筆記）
30	定期試験（実技）
31	試験解説（筆記）
32	試験解説（実技）